



224

小学校高学年向け

年組

2024年8月26日付・下野新聞26面

「駄菓子屋」で地域の輪

【佐野】地域の高齢者と子どもが交流する場をつくらうと、地域課題の研究に取り組む佐野高2年生がこのほど、天神町の天神町公民館で駄菓子の模擬店を開いた。全て生徒による企画・運営で、紙飛行機作りやビンゴ大会なども行われ、高齢者と子どもたちが一緒に夏のひとときを楽しんだ。森脇太郎さん（17）は「想像以上ににぎわってうれし。自分たちの研究が目指す理想の場所になった」と達成感をにじませた。

（田中佑花）

佐野高2年生 課題研究の一環に



同校は総合的な探究の時間を活用し、生徒がまちづくりや子どもの居場所などさまざまな地域課題をテーマに研究を行っている。今回のイベントもその一環で「高齢者と子どもの交流」と「規格外の果物の利用」を研究する2班、計10人が手がけた。交流の場として生徒が着目したのが「駄菓子屋」。最近では数が少なくなっている作ったかき氷を子どもに手渡す佐野高の生徒

るものの、昔は地域の人々が集まる役割を持っていたことから「子どもには新鮮で、高齢者には懐かしい場所として楽しめる」と考え、舞台に選んだ。

6月ごろから市社会福祉協議会や同町会などに足を運び活動をアプレン。各団体から協賛や協力を受けたが、高齢者には懐かしい場

所として楽しめる「考え」を越えて楽しんだ。高年齢者から一緒に遊んだ子どもに「ありがとう券を

渡し、お菓子を交換できる仕組みも考案。城北小3年三好瑛さん（8）は「みんなで遊べて楽しい。紙飛行機では5位に入った」とお菓子を片手に笑顔で話した。市内の果樹園から購入した規格外のナシの販売も行った。担当班の栗原杏奈さん（17）は「女の子が『おいしかった』と言いに来てくれたのがすごくうれしかった。規格外でもおいしく食べられることをもっと知ってほしい」と笑顔で話した。

設問

【1】見出しを本文から三つ読み取りましょう。

【2】どんな目的で誰がどこで何を行ったのでしょうか。リードから読み取りましょう。

【3】駄菓子屋のどんな役割に注目したのでしょうか。

【4】駄菓子の模擬店では、どんなことが行われましたか。

【5】あなたの町では子どもと高齢者など、地域の人々のつながりがありますか。またそれはどんな人が準備しているのでしょうか。家の人などから調べてみましょう。